

平成27年度 第2回 京都市地域リハビリテーション推進会議 次第

平成27年11月12日(木)午後2時から
京都労働者総合会館4階第8会議室

[目次及び資料一覧]

1 報告

平成27年度地域リハビリテーション推進事業の進捗について(4月~10月期)

P 1~ 9

(別紙1) 地域リハビリテーション推進研修事業実施状況..... P10~11

(別紙2) 平成27年度京都市地域リハビリテーション推進研修 研修内容一覧
P12~19

(別紙3) 平成27年度地域リハビリテーション推進研修(前期分)アンケート
にみる受講者の満足度及び要望事項 P20~21

(別紙4) 「電動車椅子講習会」チラシ P22

(別紙5) 「からだの動きに障害のある方の体力測定」チラシ P23

(別紙6) 「第29回京都市地域リハビリテーション交流セミナー」チラシ
P24~25

(別紙7) 京都市地域リハビリテーション推進センター機関紙「リハ*エール」

2 議題

高次脳機能障害者支援の取組の現状と課題について

P26~33

(資料1) 「京都市高次脳機能障害者支援センター」リーフレット

(資料2) 高次脳機能障害者支援センター相談支援の状況 P34

(資料3) 「高次脳機能障害入門講座」チラシ P35

(資料4) 「障害者支援施設のご利用案内」パンフレット

3 その他

京都市地域リハビリテーション推進会議委員名簿

平成27年11月1日現在

氏 名	所 属 機 関 等
上原 春男	学識経験者／医師
加藤 博史	学識経験者／龍谷大学短期大学部教授
西村 幸秀	京都府医師会理事
沖 豊彦	京都市社会福祉協議会 京都市福祉ボランティアセンター 所長 地域福祉推進室 ボランティア・地域支援部 部長
榊 信一	京都市身体障害者福祉施設長協議会会長代行
並河 茂	京都府理学療法士会会長
平山 聡	京都府作業療法士会会長
瀧澤 透	京都府言語聴覚士会会長
長谷川泰子	京都府看護協会常任理事
植松 理香	京都医療ソーシャルワーカー協会事務局長
酒伊 良行	京都市障害者地域生活支援センター連絡協議会理事
吉田 信吾	京都市居宅介護等事業連絡協議会理事
井桁 光	京都市生活介護等事業所連絡協議会運営委員
井上 基	京都府介護支援専門員会会長
徳永 博己	京都市保健福祉局障害保健福祉推進室企画課長
中原 浩二	京都市教育委員会事務局指導部総合育成支援課長
西尾 健	京都市地域リハビリテーション推進センター所長

事務局 京都市地域リハビリテーション推進センター
〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地
電 話 075-823-1655
FAX 075-842-1545

事務局員氏名	職 名
中田 泰司	次長
中田 景子	企画課長
市野 繁和	相談課長
小山 雅史	企画課企画係長
大嶋 孝司	相談課地域リハビリテーション推進係長
南部 美紀子	相談課高次脳機能障害支援係長
吉田 弘子	企画課企画担当

平成 27 年度地域リハビリテーション推進事業の進捗について(4 月～10 月期)

旧京都市身体障害者リハビリテーションセンターの機能を再編し、平成 27 年 4 月に新たにスタートした京都市地域リハビリテーション推進センターにおける 4 月～10 月の地域リハビリテーション事業の取組状況等は、次のとおりとなっている。

昨年同期と比較すると、地域リハビリテーション推進研修や事業所訪問支援等において取組内容の充実や利用者増がある等、新センターにおける地域リハビリテーションの事業運営は、概ね順調に推移していると考えられる。

しかし、これまでの医療を中心とした総合的なリハビリテーションを提供する個別支援から、障害のある市民を地域で支えている事業者の専門性の向上に向けた支援に大きく転換した当センターの役割に照らせば、更なる事業所訪問支援の推進や生活期リハビリテーションの普及促進など、より一層の取組の強化が求められる。

1 研修・指導

(1) 地域リハビリテーション推進研修

引き続き、市内の障害福祉サービス事業所や介護保険事業所等に勤務する職員に対して、リハビリテーションをはじめ福祉・介護サービスに関する知識及び技術の向上に向けた研修を計画し、実施している。

① 座学については、昨年度における講座ごとの出席者数の状況や受講者の要望及び社会動向等を踏まえ、定員割れの程度が大きかった講座は、思い切って取りやめ、要望が多かったものや今日的な課題については積極的にテーマとして採用する等、ニーズに応じたカリキュラムの設定に努めた。

この結果、少なくとも前期研修においては、出席数は、昨年度と異なり、多くの講座で定員超過となった。

② 実習についても、全般的に内容を見直し、特に前期の初任者向けは、ヘルパーの方などにわかりやすい生活場面を単位としたカリキュラムを設定し、内容についても生活場面を想定したセンターの生活動作訓練室を活用して、少人数制による体験色の濃い実習となるよう工夫を凝らした。この結果、実習においても応募者数が定員を超過し、実習の性格上、お断りをせざるを得ない講座も少なくなかった。

後期の実習についても、これまでのカリキュラムに追加して、「自助具」と失語症の理解に向けた「おはなし広場」を復活させるとともに、「自助具」については製作体験も新たに組み込み、より現場で活用できる内容等、具体的なニーズに留意した。

③ また、平成 27 年度においては、少しでも出席意欲や関心を喚起できるよう、一部の講座について、できるだけインパクトある名称とすることにも意を用いた。

④ なお、高次脳機能障害者支援に関するものについては、高次脳機能障害者支援センターの開設を機に地域リハ推進研修事業とは別に実施することとしている。

⑤ 平成 27 年度の前期研修のアンケートによる受講者の満足度の状況や要望等は、(別紙 3) のとおり。満足度については、特に実習において、有効回答のうち「満足できなかった」とする人はいない結果となっており、引き続き、アンケートにみられる要望等に留意し、ニーズに即した研修の実施に努める。

<地域リハビリテーション推進研修実施概況>

*カリキュラム等の詳細については、次をそれぞれ参照

(別紙 1)「地域リハビリテーション推進研修実施状況」

(別紙 2)「平成 27 年度京都市地域リハビリテーション推進研修 研修内容一覧」

(別紙 3)「平成 27 年度地域リハビリテーション推進研修(前期分)アンケートにみる受講者の満足度及び要望事項」

		平成 26 年度	平成 27 年度	増 減
<前期> (初任者向け) 【26 年度】 6 月 3 日～7 月 7 日 【27 年度】 5 月 15 日～6 月 8 日	実施講座数	17	18	1
	座学	9	10	1
	実習	8	8	-
	延受講者数	488	632	144
	座学	375	583	208
	実習	113	49	△64
<後期> 【26 年度】 9 月 19 日～3 月 13 日 【27 年度】 10 月 23 日～1 月 15 日	実施講座数	35	33	△2
	座学	21	13	△8
	実習	14	20	6
	延受講者数	883	789	△94
	座学	825	630	△195
	実習	58	159	101
合計	実施講座数	52	51	△1
	座学	30	23	△7
	実習	22	28	6
	延受講者数	1,371	1,421	50
	座学	1,200	1,213	13
	実習	171	208	37

注) ①「延受講者数」は、1 講座ごとに出席者数をカウント(例:1 日に 1 人が連続して 2 講座に出席した場合、延受講者数は 2)

②平成 27 年度「後期」の「実施講座数」は予定数、「延受講者数」は定員数。平成 27 年度「合計」はこれら予定数や定員数により算定

(2) 総合支援学校等教職員研修

引き続き、京都市内の総合支援学校及び肢体育成学級に従事する教職員のリハビリテーションに関する知識及び技術の向上を図るため、各校の要望に沿った研修を実施している。

なお、平成 27 年度から新任職員技術指導研修については、地域リハビリテーション推進研修において実施することとした。

<総合支援学校等教職員研修実施状況>

(各年度とも 10 月末日現在)

	平成 26 年度	平成 27 年度
新任教職員技術指導研修	4 校 3 日間コース 11 名受講	※地域リハ推進研修（初任者向け）において実施 7 名受講
事例研修 (西総合支援学校)	11 回 延べ 52 名受講	9 回 延べ 28 名受講
肢体育成学級派遣研修 (肢体育成西ブロック連絡会)	・太秦小学校 10 月計 2 回 14 名受講	・大藪小学校 6 月, 7 月計 2 回 14 名受講 ・宇多野小学校 8 月, 10 月計 2 回 16 名受講
肢体育成学級研究会 (呉竹ブロック)	※11 月 開催	9 月 12 名受講
総合支援学校教育研究会	8 月 110 名受講	※予定なし。

(3) 障害福祉サービス事業所等訪問支援

引き続き、地域リハビリテーション推進センターの専門職員（理学療法士等のセラピスト）を市内の障害福祉サービス事業所へ派遣し、事業所職員に対して、利用者の身体状況の把握や機能維持及び適切な介助・支援の方法等について助言を行っている。

<セラピストによる助言の例>

○訓練

- ・歩行, 上下肢機能（筋トレ, ストレッチ）

○動作・姿勢

- ・車椅子座位, 食事, トイレ, 入浴, 作業
- ・車椅子, 便器等移乗

○補装具適応

○発語点検

○介助

○家屋改修

平成 27 年度においては、派遣セラピストについて、これまでの理学療法士及び作業療法士の増員に加えて、言語聴覚士も新たに配置し実施体制を拡充するとともに、年度当初から新たに次について取り組んでいる。

＜セラピストの派遣体制の拡充＞

【平成 26 年度】

PT 1 名

※適宜 OT1 名を臨時的に派遣

【平成 27 年度】

PT 2 名

OT 2 名（※1 名は係長）

ST 1 名

ア 訪問時にセンターセラピストの行った助言・提案内容を文書でまとめ、当該事業所に対し結果をレポートとして提供することにより、当該事業所職員による共有化を図るとともに、他のサービス利用者への応用を要請

イ 家庭などの実際の生活場面での効果的な助言や提案も行えるよう、訪問支援対象事業所に居宅介護事業所を追加

また、9 月からは、生活期リハビリテーションの普及促進に向けて、家庭やサービス事業所において実践できる身体機能の維持・向上や日中活動のプログラムを提案し、これをサービス利用計画等への導入を助言する取組についても、事業所訪問支援の支援内容のひとつとして追加し開始した。

＜障害福祉サービス事業所訪問実施状況＞

（各年度とも 10 月末日現在）

		平成 26 年度	平成 27 年度	増減	備 考
総 数	訪問箇所数	8	17	9	
	延訪問回数	14	35	21	
	1 箇所当たり回数	1.8	2.1	0.3	
	延利用者数	25	52	27	
生活介護	訪問箇所数	7	9	2	
	延訪問回数	13	24	11	
	1 箇所当たり回数	1.9	2.7	0.8	
	延利用者数	24	39	15	
就労移行・就労継続支援	訪問箇所数	0	3	3	
	延訪問回数	0	6	6	
	1 箇所当たり回数	0	2.0	2.0	
	延利用者数	0	8	8	
障害者支援施設	訪問箇所数	1	0	△1	
	延訪問回数	1	0	△1	
	延利用者数	1	0	△1	
居宅介護	訪問箇所数		5	5	平成 27 年度から 実施対象事業所に 追加
	延訪問回数		5	5	
	延利用者数		5	5	

注) 訪問実績のある事業所種別のみ掲載

各圏域の障害者自立支援協議会において、新センターの事業説明の機会をいただいたこと

もあって、平成 27 年度は、対前年同期比で延利用申込数（＝延訪問回数）は増加しており、この内容は、生活介護事業所における 1 事業所当たりの利用回数増や就労支援系事業所の利用増に加えて、今年度から新たに事業対象とした居宅介護事業所の新規利用となっている。しかし、延訪問回数が増加したとはいえ、これまでから実施している生活介護事業所においては、利用事業所に偏りがみられ、訪問事業所箇所数の増は 2 箇所にとどまっている。

いずれにせよ、市内の障害福祉サービス事業所数に照らせば、当事業の利用はまだまだ広がってはいない実情にある。

その要因は、事業所における訪問支援の受入れ条件が必ずしも整っていないなどのほか、訪問支

【身体障害を対象としている市内の障害福祉サービス提供事業所数等】 計 575

① 生活介護	41	④ 自立訓練	2	⑦ 居宅介護	302
② 共同生活援助	11	⑤ 就労移行支援	12	⑧ 相談支援	137
③ 施設入所支援	9	⑥ 就労継続支援	61		

*平成 27 年 8 月現在

援事業の内容やその有効性等について、未だ十分に周知されていないことにあるとする声も聞かれている。

障害のある市民の快適な地域生活と社会参加の推進を実現する生活期リハビリテーションをよりいっそう普及させていくためには、福祉サービス利用計画におけるリハビリテーションプログラムの導入促進が有効な手法のひとつと考えられることから、この具体化につながる事業所訪問支援事業の積極的な活用に向け、これまでに蓄積された取組実績を事例集としてまとめ、これを各事業所へ配布することの検討や後述するセンター機関紙の活用等により、引き続き、事業 PR に努めていく。

(4) 電動車椅子講習会

引き続き、京都府警察本部交通企画課及び電動車いす安全普及協会の協力を得て、電動車椅子を利用している方、これから利用を考えている方やその介助者、更にケアマネージャーなど利用に関する相談を受ける立場にある方を対象に、電動車椅子の適切な操作方法等について実技を中心とした講習会を実施し、安全な利用の促進を図った。

平成 26 年度は、受講機会を拡大し、年 4 回の開催としたが、参加実績は低調な結果となっており、平成 27 年度は 2 回の開催としている。

*（別紙 4）チラシ参照

＜電動車椅子講習会実施状況＞

	定員	参加実績	
		平成 26 年度	平成 27 年度
第 1 回 (10 月)	15	12	12
第 2 回 (10 月)	15	7	12
第 3 回 (1 月)	15	12	
第 4 回 (1 月)	15	6	
計		37	24

参 加 者 数		37	24
内訳	本人 (利用中)	4	2
	本人 (利用予定)	5	7
	関係事業所職員等	26	15
	その他	2	0

(5) からだの動きに障害のある方の体力測定

平成 24 年度まで「地域リハビリテーションのつどい」事業として、旧附属病院や障害者支援施設などセンター利用者を対象に実施していた肢体不自由障害のある市民の体力測定について、平成 27 年度から、からだの動きに障害のある市民一般を対象に復活させ、自身の体力を確認することにより、身体機能の維持・向上への関心を持つ契機とし、社会参加の促進を図ることを目的として、同一内容により 2 回実施した。

市民しんぶんや広報発表、福祉サービス事業所等への個別メール等により周知したが、2 回共に参加者は定員の半分余りとどまり、今後課題を残した。＊（別紙 5）チラシ参照

＜からだの動きに障害のある方の体力測定＞

	定員	参加実績	おもな測定項目
9 月 11 日 (金)	20	12	筋力 (握力, 下肢筋力), 棒反応, 長座体前屈, ファンクショナルリーチ, アップアンドゴー, 骨密度, 肺活量, 歩行能力
9 月 18 日 (金)	20	10	
計	40	22	

(6) その他関係機関等への講師派遣研修

引き続き、関係機関等からの依頼に基づき、専門職員等による講師派遣を行い、リハビリテーションに関する知識及び技術の向上を図った。

平成 27 年度においては、各圏域の障害者自立支援協議会において、新しいセンターの事業説明の機会をいただいたが、これを契機として、居宅介護事業関連の派遣要請を新たにいただいたことが特徴となっている。

＜講師派遣の状況＞

(各年度とも10月末現在)

	依頼者	派遣目的	派遣職員	参加者	備考
平成26年度	市鳴滝総合支援学校	介護職員初任者研修養成講座	PT, OT, 看護師各1名	同校高校3年4名	派遣日数は延6日間
	市保健福祉局長寿社会部	認定調査員新任研修会	PT 1名	調査員約40名	
	桂川療護園	介護技術研修	PT 2名	職員約40名	
	総合支援学校研究会	姿勢運動分科会研修	PT OT1名	総合支援学校教員約30名	
平成27年度	市鳴滝総合支援学校	介護職員初任者研修養成講座	PT, OT, 看護師各1名	同校高校3年4名	派遣日数は延6日間
	市保健福祉局長寿社会部	認定調査員新任研修会	PT 1名	調査員約40名	
	上京障がい児者ネットワーク	入浴時介助の方法や入浴関連用具の活用及び浴室の環境調整に係る研修	PT OT 各1名	おもにヘルパー約20名	
	居宅介護等事業連絡協議会	腰痛防止講義, 介助及び移乗実習	PT 2名	おもにヘルパー約50名	

2 啓発事業

(1) 地域リハビリテーションのつどい

引き続き、言語訓練を終了した言語に障害のある方について、自信をもって社会参加できるよう、言語聴覚士が中心となって語らいの場（おはなし広場）を提供し、社会活動への参加促進に取り組んでいる。

これまでセンター利用者を中心に実施してきたが、高齢化等により参加人数も減少してきており、そのあり方を含め当事業について検討する必要がある。

＜おはなし広場実施状況＞

(各年度とも10月末現在)

年 度	実施回数	参加延人数	1回当たり延人数
平成26年度	17	149	8.8
平成27年度	17	95	5.6

(2) 地域リハビリテーション交流セミナー

引き続き、様々な角度から地域におけるリハビリテーションの推進を図るため、医療、福祉関係者のみならず多くの市民の参加を求め、障害のある方とふれあうことにより、障害の有無にかかわらず地域で豊かに生活できる環境づくりについて考えてい

ただく機会として開催する。

平成 27 年度においては、これまでの年 1 回の開催を複数回とするとともに、実施効果をより高めるため、地域と密着している各圏域の障害者自立支援協議会等とも連携した開催について模索している。

平成 27 年度の第 1 回目となる第 29 回のセミナーは、次により開催することとしている。

＊（別紙 6）チラシ参照

なお、第 30 回の開催を年明けに予定している。

【第 29 回 地域リハビリテーション交流セミナー】

○テーマ 高次脳機能障害者支援

「高次脳機能障害のある人が地域で暮らすために」

○日 時 平成 27 年 12 月 4 日 午後 1 時 30 分～5 時

○場 所 京都産業大学 むすびわざ館 2 階ホール

○内 容

・講 演：京都大学精神科医教授による概要説明と当事者の妻（イラストレーター）の体験

・座談会：上記演者と当センター職員の 3 名による座談会

（3） センター機関紙のリニューアル発行

新センターにおける事業の周知不足の状況を改善するため、これまで生活期リハビリテーションに役立つ情報提供を行うため発行してきた「地域リハ研究」をリニューアルし、センター事業に関する情報等をふんだんに加え、できる限り頻回に発信することとした。

これを契機に、機関紙名を「リハ✽エール」に改称するとともに親しみを感じていただくため、センターのマスコットキャラクター「地域ガエル」を設けた。

＊（別紙 7）「リハ✽エール」参照

- | | |
|------------|---|
| ① 創刊号 | 11 月発行 |
| ② 「リハ✽エール」 | “リハビリを行っている人にエール（応援）” |
| ③ 「地域ガエル」 | “地域に帰る”（地域リハビリテーションの推進） |
| ④ 掲載記事 | センター事業や行事に係るタイムリーな情報提供、利用者や事業所等支援者の声などの紹介 |

3 今後の予定

引き続き、各圏域の障害者自立支援協議会等をはじめ地域における関係機関等との緊密な連携とセンター事業の積極的な PR に努めることにより、地域リハビリテーション各事業の着実な推進を図っていく。

特に、障害福祉サービス事業所等訪問支援については、生活期リハビリテーションの普及促進において大きな役割を果たすものと考えており、この積極的な事業推進に努める。

なお、「高齢者も包括した地域リハビリテーションの推進」の課題については、体制上の条件も考慮し、障害福祉分野における今後の事業展開の状況を見極めたうえで判断して取り組むこととする。

地域リハビリテーション推進研修実施状況

【座 学】

	平成26年度				平成27年度			
	内容	定員	実績	対定員実績差	内容	定員	実績	対定員実績差
前期 (初任者)	障害者支援施策の概要①	50	50	0	障害福祉サービスの概要	50	43	△ 7
	障害者支援施策の概要②	50	50	0				
	見えへんでも普通の人生(視覚障害)	50	中止	-				
	聴覚障害の方々に寄り添って	50	中止	-				
	知的障害	50	33	△ 17				
	知的障害者支援の実践①	50	33	△ 17	知的障害者支援	50	67	17
					障害者支援の実践	50	43	△ 7
	精神障害	50	49	△ 1	精神障害	50	58	8
	地域で共に生きる～当事者からの報告～	50	49	△ 1	精神障害～当事者の立場から～	50	58	8
	地域で共に生きる～当事者の親から～	50	33	△ 17				
	重度障害のある人の生活	50	50	0	発達の遅れと支援	50	67	17
					難病施策	50	68	18
					難病患者のニーズと支援方法	50	68	18
					難病患者支援～当事者の立場から～	50	68	18
後期	福祉用具の種類と有効活用等	30	28	△ 2				
					介護施策の概要	50	43	△ 7
	小計(11講座)	530	375	△ 155	小計(10講座)	500	583	83
	運動器疾患	70	35	△ 35				
	基本動作のメカニズム	70	35	△ 35				
	口腔ケア	70	29	△ 41				
	★介護職のための医療的ケア	50	9	△ 41	★介護職のための医療的ケア	50		
					大切です！足のケア！	50		
	摂食・嚥下機能障害	70	29	△ 41				
	言語障害のある人の理解と対応	70	45	△ 25	失語症って何？理解と接し方	50		
					ことばに遅れのある人と話すときに	50		
					知っていますか？コミュニケーション	50		
	知的障害者支援の実践②	70	59	△ 11				
	発達の遅れと支援	70	59	△ 11				
	発達障害	70	62	△ 8	発達障害①	50		
	自閉症者支援の実践	70	62	△ 8	自閉症者支援の実践	50		
	★精神障害のある方への支援①	70	29	△ 41	★精神障害のある方への支援①	50		
	★精神障害のある方への支援②	70	26	△ 44	★精神障害のある方への支援②	50		
	触法障害者支援の実践	70	42	△ 28				
	高次脳機能障害	70	65	△ 5				
	高次脳機能障害者対応方法	70	65	△ 5				
	難病患者の生活ニーズと支援方法	70	45	△ 25				
	職場での腰痛予防	30	16	△ 14	腰痛からあなたを守るために！	30		
	福祉事業リスクマネジメント	70	42	△ 28				
					障害者虐待を防ごう！	50		
					明日から活かせる！栄養バランスのコツ	50		
	成年後見制度	70	13	△ 57				
	京都市の防災対策	70	29	△ 41	いざという時のために～防災対策～	50		
	事業所の防災取組	70	29	△ 41				
	小計(21講座)	1,410	825	△ 585	小計(13講座)	630	0	
	合計(32講座)	1,940	1,200	△ 740	合計(23講座)	1,130	583	

注1) 会場は、いずれも地域リハビリテーション推進センター研修室

注2) ★は委託研修

注3) 定員の70名から50名への変更は、会場となる地域リハビリテーション推進センター研修室において70名とした場合、通路に余裕がなくなる等の不都合が生じるため是正したもの。ただし、定員50名の場合に定員を超える申込みがあった場合でも、平成27年度前期研修の実績に見られるとおり、可能な限り受け入れることとしている。

地域リハビリテーション推進研修実施状況

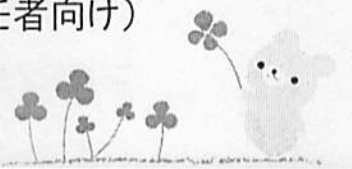
【実 習】

	平成26年度				平成27年度			
	内容	定員	実績	対定員実績差	内容	定員	実績	対定員実績差
前期 (初任者)	からだの動かし方～介助等における基本動作～	12	11	△ 1				
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	12	12	0				
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	12	13	1				
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	12	11	△ 1				
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	12	14	2				
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	12	14	2				
	車椅子のシーティング	20	20	0				
	車椅子のシーティング	20	18	△ 2				
					おでかけしよう！ (ADL室)	6	6	0
					おでかけしよう！ (ADL室)	6	5	△ 1
					ごはんを食べよう！ (ADL室)	6	6	0
					ごはんを食べよう！ (ADL室)	6	7	1
					トイレに行こう！ (ADL室)	6	6	0
					トイレに行こう！ (ADL室)	6	7	1
後期					お風呂に入ろう！ (ADL室)	6	6	0
					お風呂に入ろう！ (ADL室)	6	6	0
	小計(8講座)	112	113	1	小計(8講座)	48	49	1
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8	8	0	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8	6	△ 2	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8	2	△ 6	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8	3	△ 5	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8	3	△ 5	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8	3	△ 5	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8	1	△ 7	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8	1	△ 7	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8	1	△ 7	からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
					からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
					からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
後期					からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
					からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
					からだの動かし方～介助等における基本動作～	8		
					うまい自給水の活用で！できることを増やしてQOLを高めよう	6		
					うまい自給水の活用で！できることを増やしてQOLを高めよう	6		
	車椅子のシーティング	20	14	△ 6	その姿勢、大丈夫？～服れた座位への対応法あれこれ～	30		
	車椅子のシーティング	20	6	△ 14				
	介助リフトの有効活用	6	4	△ 2	知っていますか？～介助用リフトの正しい使い方～(ADL室)	6		
	介助リフトの有効活用	6	5	△ 1	知っていますか？～介助用リフトの正しい使い方～(ADL室)	6		
	介助リフトの有効活用	6	1	△ 5				
					おはなし広場に入ろう！	3		
					おはなし広場に入ろう！	3		
					おはなし広場に入ろう！	3		
	小計(14講座)	130	58	△ 72	小計(20講座)	159	0	△ 159
	合計(22講座)	242	171	△ 71	合計(28講座)	207	49	△ 158

注)会場は、地域リハビリテーション推進センター研修室、体育館、ミーティングルーム、日常動作訓練室(ADL室)

平成27年度 京都市地域リハビリテーション推進研修(初任者向け)

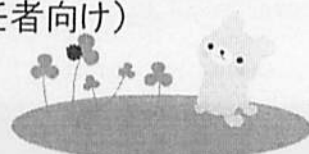
研修内容一覧(講座)



日程	時間	研修内容	会場	申込 締切	定員
5/19 (火)	13:30~ 14:10	「介護施策の概要について」 講師:京都市保健福祉局長寿社会部介護保険課 職員 高齢者保健福祉施策や介護保険事業等について、制度の基本的な知識を習得する研修です。	京都市地域リハビリテーション推進センター 1階研修室	5/12 (火)	50
	14:10~ 14:50	「障害福祉サービスの概要について」 講師:京都市保健福祉局障害保健福祉推進室 施設福祉課長補佐 後藤 弘雅, 在宅福祉第一係長 橋本 真 障害者総合支援法による障害福祉サービスの基本的な知識を習得する研修です。			
	15:00~ 16:30	「障害者への支援の実際について」 講師:山科区役所福祉部支援課 曾根 啓之 福祉事務所における生活相談から支援施策の利用に繋げるプロセス等について、事例を通して学ぶ研修です。			
5/29 (金)	13:30~ 15:00	「精神障害について」 講師:京都市こころの健康増進センター 所長 波床 将材 精神障害の特性、精神疾患と神経症やパーソナリティ障害の違いやうつ病、認知症などの疾患に関する基本的な医学的知識を習得する研修です。		5/22 (金)	50
	15:10~ 16:00	「精神障害について」～当事者の立場から～ 講師:京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」 サービス管理責任者・相談支援専門員 田上 嘉之 ピアサポーター 望月 潤一 精神的な疾患から長い入院生活を送った障害当事者が、入院生活から地域に帰って生活するまでの体験談を通し、支援方法や疾患への理解を深めます。			
6/5 (金)	13:30~ 15:00	「発達の違いと支援」 講師:京都市発達相談所相談判定係長 古田 直樹 発達の遅れとは何か。その意味と目的知能検査の成り立ちなどの基本的な理解と、感情表現の受け止め方や共有することの大切さなど、支援にあたっての「視点」をどこに置いたらよいのか、様々な事例を通して理解を深めます。		5/29 (金)	50
	15:10~ 16:40	「知的障害のある方への支援について」 講師:社会福祉法人世光福祉会デベスタの家 所長 中西 昌哉 知的障害のある方とどのように向き合い支援するのか、事例を通して理解を深めます。			
6/11 (木)	13:30~ 14:10	「難病施策について」 講師:京都府健康福祉部健康対策課 職員 今年度から難病に関する相談体制が変わりました。難病施策と、今後の相談体制等の基本的な内容を知る研修です。		6/4 (木)	50
	14:20~ 15:50	「難病患者のニーズと支援方法について」 講師:辻医院 相談員 瀬津 幸恵 筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの難病を持ちながら在宅生活を営む方々が、提供される医療・介護等のサービスの充実と共に増えてきています。難病患者の生活ニーズを知るとともに、具体的な援助の方法について学びます。			
	16:00~ 16:50	「難病患者のニーズと支援方法について」～当事者の立場から～ 講師:全国多発性硬化症友の会関西支部 事務局 河合 美佐 難病のある方が実際にどのような生活をし、どのような支援を必要としているのか、難病患者のニーズと支援方法について理解を深めます。			

平成27年度 京都市地域リハビリテーション推進研修(初任者向け)

研修内容一覧(実習)



日程	時間	研修内容	会場	申込 締切	定員
5/15 (金)	13:30~ 17:00	「お出かけしよう！」 講師：京都市地域リハビリテーション推進センター 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	京都市地域 リハビリ テーション 推進セン ター	5/8 (金)	各 6名
6/12 (金)		「外出する」という事は、介護予防やQOL向上の効果もあり重要なことです。 外出前の身だしなみについての話や、歩行補助用具、短下肢装具、車椅子、電動 車椅子について体験を交えて学びます。 ※各回とも、内容は同様です。動きやすい服装でお越しください。	4階ADL室と 3階体育館	6/5 (金)	
5/13 (水)	13:30~ 17:00	「ご飯を食べよう！」 講師：京都市地域リハビリテーション推進センター 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	京都市地域 リハビリ テーション 推進セン ター	5/7 (木)	各 6名
5/21 (木)		食事は生命維持のための栄養補給の他、生きがいを感じる場、他者とのコミュニ ケーションの場として、重要な意味を持ちます。 今回は食事に関連する、身体機能、姿勢、動作、自助具、嚥下機能や、心理的側 面、口腔ケア、コミュニケーションなどについて幅広く考えてみます。 ※カップに入ったゼリー(具なし)を1個持参して下さい。(お弁当に入れるミニタイプは 不可です。) ※各回とも、内容は同様です。動きやすい服装でお越しください。	4階ADL室	5/14 (木)	
5/25 (月)	13:30~ 17:00	「トイレに行こう！」 講師：京都市地域リハビリテーション推進センター 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	京都市地域 リハビリ テーション 推進セン ター	5/18 (月)	各 6名
5/27 (水)		一言に「トイレに行く」と言っても、そのためには、尿意や便意を知覚・コントロールする ことや、トイレへの移動、下衣の上げ下ろし、座位保持、後始末など、さまざまな動作・ 認知能力が要求されます。 これら排泄を行うために必要な心身機能・能力を理解し、福祉用具の選定や環境 整備、介助の仕方などを実際に体験しながら学びます。 ※各回とも、内容は同様です。動きやすい服装でお越しください。	4階ADL室	5/20 (水)	
6/3 (水)	13:30~ 17:00	「お風呂に入ろう！」 講師：京都市地域リハビリテーション推進センター 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	京都市地域 リハビリ テーション 推進セン ター	5/27 (水)	各 6名
6/8 (月)		入浴動作には、脱衣所までの移動、更衣、洗体、浴槽への出入りなど必要な動きが たくさんあります。それぞれの動作に必要な身体機能を理解し、福祉用具の選定や環 境整備、介助の仕方などを実際に体験しながら学びます。 ※各回とも、内容は同様です。動きやすい服装でお越しください。	4階ADL室	6/1 (月)	

*京都市身体障害者リハビリテーションセンターは、平成27年4月1日に機能再編し、京都市地域リハビリテーション推進センターへ改称しました。

平成27年度京都市地域リハビリテーション推進研修(後期)

研修内容一覧(講座)



日程	時間	テーマ、研修内容	会場	定員
10/23 (金)	13:30～ 15:00	講座1 「発達障害とは」 講師：京都市発達障害者支援センター「かがやき」 センター長 医師 村松 陽子 近年の調査で、発達障害の特徴を持つ人が身近にいたことが分かってきましたが、障害される能力や程度は人により様々であり、周りからも理解されにくい障害です。 発達障害とはどのような障害か。それぞれの障害の特性について知り、理解を深めます。	地域 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 推 進 セ ン タ ー 1 階 研 修 室	各 5 0 名
	15:10～ 16:40	講座2 「自閉症(アスペルガー症候群・高機能自閉症)のある方への支援の実際」 講師：ストレイトコンサルティング 代表 駒田 健一 今回は、知的障害のあまりないタイプの自閉症の方の支援を事例を交えてお話します。 「何回も言ってるのに全然聞いてくれない!」「よく分からないけど急に怒りだした」身近にいませんか? 診断名のつかないまま大人になってしまう人もたくさんいます。もちろん知的障害のある自閉症の方の支援のヒントにもなります。		
10/29 (木)	13:30～ 15:00	講座3 「いざという時のために～防災対策について～」 講師：京都市行財政局 防災危機管理室 地域防災推進担当課長 人見 早知子 災害はいつ起こるか分かりません。いざという時のために備えていますか? 京都市の防災計画等について、防災に対する考え方、市民として知っておくことなどをお話します。		
	15:10～ 16:40	講座4 「障害者虐待を防ごう!」 講師：京都市保健福祉局 障害保健福祉推進室 在宅福祉第二係長 阿部 孝史 あなたの周りは大丈夫? 障害者虐待防止法の説明と早期発見・対応のポイントについてお話します。		
11/5 (木)	13:30～ 15:00	講座5 「大切です! 足のケア」 講師：看護師 元フットケア指導士 造酒 錦代 足や足の爪病変に関心をもつことは、転倒予防につながります。また、足に優しい正しい靴を着用していますか? リハセンターで5年間フットケア外来に従事してきた経験のある看護師がフットケアについてお話します。		
	15:10～ 16:40	講座6 「知っていますか? コミュニケーション」 講師：京都市地域リハビリテーション推進センター 心理判定員 富平 美智子 家庭、職場、友人関係など、社会生活を送るのに人間関係は切っても切れません。人間関係を円滑に進めるのに、コミュニケーションは重要なポイントです。御自分の性格や人間関係のクセを知って、普段のコミュニケーションを見直してみませんか? 簡単なワークも体験していただきます。		



平成27年度京都市地域リハビリテーション推進研修(後期)

研修内容一覧(講座)



日程	時間	テーマ, 研修内容	会場	定員
11/10 (火)	13:30~ 15:00	講座7 「ことばに遅れのある人と話すときに ～押さえておきたい基本的なコト～」 講師:京都市地域リハビリテーション推進センター 言語聴覚士 西田 奈都美 いつの間にか使えるようになったことば。どうやって発達し、どんな原因で遅れが生じるのか……。ことばに遅れのある人達とコミュニケーションを取るコツについても考えてみましょう。	地域 リハ ビリ テー シ ョ ン 推 進 セ ン タ ー	各 5 0 名
	15:10~ 16:40	講座8 「失語症って何?～その理解と接し方～」 講師:京都府言語聴覚士会 会長 言語聴覚士 瀧澤 透 失語症の症状、失語症のある方の心理状態などの基本的な理解とそれを踏まえたコミュニケーションの取り方の工夫やツールについての理解を深めます。		
11/12 (木)	10:00~ 16:20	講座9 「精神障害のある方への支援(1)」 10:00~12:00 「認知症」 講師:医療法人三幸会 北山病院 看護介護部 部長 坂井 加津美 認知症の研修では、医学的な認知症の基礎知識や薬物療法について、また、実際に認知症の方のケアを行うために必要とされるコミュニケーションの取り方や認知症の周辺症状(BPSD)の対応方法などについても説明させていただきます。	1 階 研 修 室	
		13:00~14:00 「発達障害」 講師:医療法人三幸会 北山病院 心療内科 医長 山田 美和 支援者が、発達障害を有する青年期・成人期事例に対応する際に役立つ臨床的知識を得られるよう、自閉症スペクトラムを中心に、知的障害・素行障害や他の精神疾患合併事例の治療や対応のポイントも交えて解説します。		
		14:10~15:10 「精神障害者の生活支援」 講師:医療法人三幸会 第二北山病院 相談室 主任 平山 司 精神科病院において実践している訪問による生活支援について、支援者としてどこに「視点」を置き、その人らしい生活を如何に支えていくかを事例を通じて理解を深める機会とします。		
		15:20~16:20 「精神科リハビリテーション」 講師:医療法人三幸会 北山病院 リハビリテーション部 副部長 中田 和範 精神科リハビリテーションの基本的な知識をおさえ、精神障害のある方、主に統合失調症に関して、認知記憶機能の観点から、障害の理解を進めることと合わせて、具体的な生活場面で起こっていることやその援助を示します。		

平成27年度京都市地域リハビリテーション推進研修(後期)

研修内容一覧(講座)



日程	時間	テーマ 研修内容	会場	定員
11/13 (金)	10:00~ 16:20	講座10 「精神障害のある方への支援(2)」 10:00~12:00 「精神障害者の支援と回復する力」 講師:京都ノートルダム女子大学 心理学部 教授/学部長 河瀬 雅紀 精神の障害を抱えながらも社会と関わり回復しようとする力を生かし、そのプロセスで生じる困難に対処しながら、その人らしい暮らしと自己実現ができるような支援のあり方を考えていきます。	地域 リハ ビリ テー シ ョ ン 推 進 セ ン タ ー 1 階	各 5 0 名
		13:00~14:00 「神経症について」 講師:医療法人三幸会 北山病院 医師 加嶋 晶子 神経症とは19世紀末、フロイトが概念化した精神疾患群の一つです。20世紀以降、神経症治療のために精神分析が発展しました。しかし、1980年代以降は、生物学的な見地から神経症概念が再検討され、診断基準では「神経症」という言葉は使用されていません。けれども臨床場面ではとても重要な考え方であり、講義では神経症概念の生い立ち及び現代の精神医療における神経症の位置づけなどを考えていきたいと思います。		
		14:10~15:10 「気分障害(感情障害)」 講師:医療法人三幸会 第二北山病院 医師 吉川 好美 気分障害(感情障害)の治療や対応のポイントも交えて解説します。		
		15:20~16:20 「障害者雇用について」 講師:医療法人三幸会 就労支援センター・ヒューマンプラス 利用者・スタッフ 障害者雇用の促進における就労移行支援事業所で行っている支援と、実際に就職した当事者の体験談をお伝えします。一度は社会復帰を諦めた精神障害者が、職業リハビリテーションによって一般就労に至った過程をお聞かせください。		
12/3 (木)	13:30~ 15:00	講座11 「明日から活かせる! 栄養バランスのコツ」 講師:京都市地域リハビリテーション推進センター 管理栄養士 前嶋 涼子 栄養バランスがとれた食事が良いとよく耳にしますが、いったいどんな食事のことでしょう? 適正量の求め方や量と内容ともにバランスをとるためのポイントをお話します。	研修 室	3 0 名
	15:10~ 17:00	講座12 「腰痛からあなたを守るために!」 講師:京都市地域リハビリテーション推進センター 理学療法士 岩下 淳子 介護職場は腰痛のリスクが高い職場です。腰痛を防ぐために気をつけたいポイントや職場全体として取り組む腰痛予防対策についてお話します。空き時間にできる簡単なストレッチ等も紹介しますので、動きやすい服装でお越しください。		



平成27年度京都市地域リハビリテーション推進研修(後期)

研修内容一覧(講座)



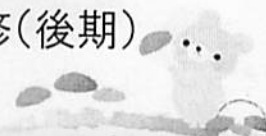
日程	時間	テーマ、研修内容	会場	定員
委託研修 NPO法人 医療的ケアネット 12/11 (金)	9:00～ 12:00	講座13 「介護職のための医療的ケア研修」 講師:NPO法人 医療的ケアネット 1 医療的ケアの考え方について(講義) 医療的ケアの中の一部の行為(口腔・鼻腔・カニューレ内の吸引, 経管栄養の実施)が, 2012年度に法制化されました。 医療的ケアを必要としている方たちは, 食べること・飲み込むこと・呼吸すること・痰を出すことなどが困難な状態で, 姿勢保持からさまざまな介助, 吸引や経管栄養, 気管カニューレや胃瘻の使用, 呼吸器等の使用が必要な方たちです。 地域で生活するために必要な医療的ケアを, 誰がどのように作り上げてきたか, それを踏まえて法制化の意味や現状を知ること, 私たちの仕事の意味を, 改めて考える機会にしたいと思います。 2 医療的ケアの緊急対応とリスクマネジメントについて(講義・実習) 吸引や経管栄養を単独の行為としてとらえるのではなく, どのような状態の方たちが必要としているのかを知り, 吸引や経管栄養を含めた呼吸や栄養についての一連の援助の中での理解を進めることで, 緊急対応やリスクマネジメントを行えるように学習(一部・実技体験)します。	地域リハビリテーション推進センター 1階 研修室	50名





平成27年度京都市地域リハビリテーション推進研修(後期)

研修内容一覧(実習)



日程 実習No.	時間	研修内容	会場	定員
11/19 (木) 実習①	13:30～ 17:00	実習1 「からだの動かし方研修」 ～介助等における基本的な動かし方について～ 講師：京都市地域リハビリテーション推進センター 理学療法士 浅田 和之・岩下淳子 理学療法士が専門的視点から介助動作について解説します。 寝返り、起き上がり、立ち上がり等の基本動作における体の動きを学び、介助するときのどのように対象者を動かせばお互い楽になるのか…を考えます。 ※各回とも、内容は同様 ※動きやすい服装でお越しください。	地域リハビリテーション推進センター 1階 研修室	各8名
11/24 (火) 実習②				
11/27 (金) 実習③				
12/1 (火) 実習④				
12/10 (木) 実習⑤				
12/15 (火) 実習⑥				
12/18 (金) 実習⑦				
12/22 (火) 実習⑧				
1/14 (木) 実習⑨				
1/19 (火) 実習⑩				
1/22 (金) 実習⑪				
1/28 (木) 実習⑫				

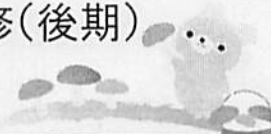


11/11 (水) 実習⑬	8:45～ 11:30	実習2 「おはなし広場に入ろう！」 講師：京都市地域リハビリテーション推進センター 言語聴覚士 西田 奈都美 事前のオリエンテーションの後、実際に、失語症のある方のグループ(6人程度)に参加し、テーマに沿った会話のやり取りに加わります。グループ終了後、会話の工夫の仕方など、振り返りを行うことで理解を深めたいと思います。 ※テーマは11/11「趣味を楽しむ」、11/18「音読・俳句を楽しむ」、11/28「よもやま話」 いずれか一つをお申し込みください。	地域リハビリテーション推進センター ミーティングルーム 1階	各3名
11/18 (水) 実習⑭				
11/25 (水) 実習⑮				



平成27年度京都市地域リハビリテーション推進研修(後期)

研修内容一覧(実習)

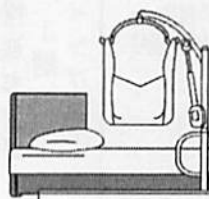


日程 実習No	時間	研修内容	会場	定員
11/16 (月) 実習⑯	13:30~ 16:00	実習3 「うまい自助具の活用で！ ～自分でできることを増やしてQOLを高めよう～」 講師：京都市地域リハビリテーション推進センター 作業療法士 上垣 幸衛	地域 リハ ビリ テー シー ョ ン 推 進 セ ン タ ー 4 階 A D L 室	各6名
12/17 (木) 実習⑰		ケガや病気で身体機能が低下し、やりにくくなった生活動作は、障害が残っても方法の工夫や福祉用具、自助具の活用で可能になることも多いものです。 実際に使用体験をしながら障害や自助具について理解を深めるほか、簡単な製作体験も実施します。 ※各回とも、内容は同様		

12/8 (火) 実習⑱	13:30~ 16:00	実習4 「その姿勢、大丈夫??～崩れた座位への対処法あれこれ～」 講師：京都市地域リハビリテーション推進センター 理学療法士 浅田 和之 / 作業療法士 上垣 幸衛 / 義肢装具士 高木 寛 介助の際に、上手く着座させることができなかったり、着座しても当事者自身は座り直しができないため座位が崩れやすく、何度も座り直すなどの対応を求められることがあります。最適な座位とは何か。座位の崩れの原因とその解決方法など実技を交えて理解を深めましょう。	地域 リハ ビリ テー シー ョ ン 推 進 セ ン タ ー 3 階 体 育 館	30名
--------------------	-----------------	---	---	-----



12/14 (月) 実習⑲	13:30~ 16:30	実習5 「知っていますか?!～介助用リフトの正しい使い方～」 講師：京都市地域リハビリテーション推進センター 理学療法士 岩下 淳子 / 作業療法士 上垣 幸衛	地域 リハ ビリ テー シー ョ ン 推 進 セ ン タ ー 4 階 A D L 室	各6名
1/15 (金) 実習⑳		介助用リフトやスリングシートには様々な種類があります。その選択や使い方を誤ると、利用者の負担になったり事故につながる恐れもあります。正しい選択や使い方を学び、より有効に活用できるよう実技を中心に行います。吊られる体験もあり、利用者の気持ちを感じてみましょう。 ※各回とも、内容は同様		



平成27年度地域リハビリテーション推進研修(前期分)アンケートにみる受講者の満足度及び要望事項

1 満足度の状況

		実数	構成比 %
全体	受講者数	632	100.0
	有効回答数	548	86.7
	満足できた	476	86.9
	満足できなかった	50	9.1
	内容難解	19	3.5
	知りたい内容でない	10	1.8
	内容容易過ぎ	5	0.9
	その他	12	2.2
	どちらでもない	22	4.0
座学	受講者数	583	100.0
	有効回答数	502	86.1
	満足できた	431	85.9
	満足できなかった	50	10.0
	内容難解	19	3.8
	知りたい内容でない	10	2.0
	内容容易過ぎ	5	1.0
	その他	12	2.4
	どちらでもない	21	4.2
実習	受講者数	49	100.0
	有効回答数	46	93.9
	満足できた	45	97.8
	満足できなかった	0	0.0
	内容難解	0	0.0
	知りたい内容でない	0	0.0
	内容容易過ぎ	0	0.0
	その他	0	0.0
	どちらでもない	1	2.2

注) 回答内容の構成比は、有効回答数に対する比

2 要望事項

(1) 全体

- ・実習の枠を増やしてほしい
- ・期間をあけて日程を組んでもらったほうが参加しやすい
- ・具体的な支援、実践について知りたい
- ・中堅職員以上の内容もいろいろな分野で増やしてほしい
- ・以前受けたテーマでも機会があれば受けたい。再度勉強する機会になった。
- ・質問がでない時はあらかじめ用意しておいた方がいいのでは？
- ・スライドは全て資料にしてほしかった
- ・同様の内容の研修を複数回設定してほしい

(2) 講座

- ・介護保険の変更点
- ・時間が短い(40分のほう)
- ・ポイントを絞ってほしい(複数)(全体的な話が聞けてよかったという意見もあり)
- ・講義時間が長かった
- ・当事者の話をきく機会がたくさん欲しい(複数)
- ・制度が変更したらその都度講習をしてほしい
- ・制度の話は後にしてほしい。事例を聞いて関心を持ってから制度の話をききたい

(3) 実習

- ・少人数、実習ができてよかった(多数)
- ・質問できてよかった(多数)
- ・具体的な摂食介助(複数)

- ・食後の臥位姿勢について
- ・口腔ケアの方法
- ・入浴介助の基本
- ・介助者の負担の少ない介助方法
- ・定員を増やしてほしい
- ・腰を痛めない介助のポイント
- ・中堅職員、またはそれ以上の内容も色々な分野で増やしてほしい
- ・楽しいレクリエーションを教えてください
- ・食事介助
- ・車への移乗

(4) テーマ希望

ア 疾病

- ・パーキンソンについて(複数)
- ・逆流性食道炎について
- ・高次脳機能障害(複数)
- ・高齢者特有の疾患・症例について
- ・認知症(多数)
- ・脳性まひについて

イ 自助具

- ・簡単な自助具作成
- ・失敗しない自助具の購入

ウ 保険・年金など

- ・障害保険と介護保険
- ・65歳を迎えた障害者の介護保険へのスムーズな移行の方法
- ・生活保護について
- ・障害年金について

エ 精神

- ・精神障害の相談機関
- ・統合失調症の方の対応法
- ・精神疾患の人への対応、関わり方、疾患別の対応の仕方(多数)
- ・精神障害のリハビリの実際について(複数)
- ・高齢者ウツの対応について
- ・精神保健分野の制度
- ・地域移行支援事業について、どのような人が対象なのか
- ・ピアサポートについて詳しく知りたい
- ・ひきこもりについて

オ 発達障害

- ・発達障害について(複数)

カ 知的障害

- ・自閉症について(多数)
- ・自閉症のある人への具体的な支援について
- ・自閉症のある人とのコミュニケーションの取り方
- ・知的障害
- ・障害のある子どもの親が要介護になった場合の支援の仕方について
- ・療育現場での実際について
- ・発達について

キ コミュニケーション

- ・構音指導
- ・SST
- ・知的障害のある人とのコミュニケーションの取り方

ク その他

- ・デイサービスでできる症状別の機能訓練、基礎的な機能訓練
- ・特別支援学校でしていること
- ・体の動かし方研修をしてほしい
- ・相談計画支援について
- ・介護予防サービスの地域支援事業への移行の具体的施策について
- ・就労経験のない人の就労支援



「電動車椅子の講習会」を開催します。

電動車椅子は、

歩行に困難を感じる方々の移動手段として普及してきています。その一方で、操作ミスや傾斜・段差による転倒や事故なども発生しています。

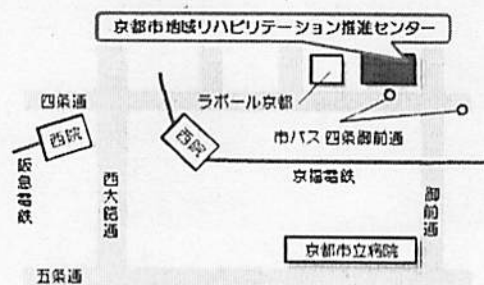
- これから電動車椅子を利用したいと考えている方
- 既に、電動車椅子を利用されている方
- ケアマネージャー等で電動車椅子の利用を勧める立場にある方

安全に利用していただくために、是非この機会にお申し込みください。

- 1 日 時 第1回 平成27年10月13日(火) 午後2時～午後4時30分
 第2回 平成27年10月27日(火) //
- ※各回とも同じ内容です。

- 2 場 所 京都市地域リハビリテーション推進センター
 3階体育館

市バス 四条御前通 下車すぐ
 阪急電鉄 西院駅から 徒歩約6分
 京福電鉄 西院駅から 徒歩約3分



- 3 内 容 午後2時～ 講習「交通ルールについて」
 講師：京都府警察本部交通事故防止対策室職員
 午後2時30分～ 講習「種類と基本操作について」
 講師：地域リハビリテーション推進センター職員
 午後3時15分～ 実技「実際に乗ってみましょう」

- 4 定 員 各回 15名

- 5 参 加 費 無料

- 6 申込期間 9月1日(火)から各開催日の5日前まで
 (第1回10月8日(木), 第2回10月22日(木)まで)

- 7 申込方法 京都市地域リハビリテーション推進センター相談課(Tel 823-1666)へ電話
 でお申し込みください。(※午前8時30分～午後5時(土・日・祝日を除く))
 なお、先着順のため、定員になり次第締め切らせていただきます。



京都市
CITY OF KYOTO

主催 京都市
 協力 京都府警察本部、電動車いす安全普及協会
 発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
 京都市印刷物 第274366号 平成27年8月



地域リハビリテーション推進センター

体の動きに障害のある方の「体力測定」を開催します。

一般に、体力は疾病や加齢によって低下します。特に体の動きに障害のある方については、障害の部位や程度によって早期に身体機能が低下すると言われています。

最近、体を動かしていますか？ 最近、体力測定しましたか？

自分の体力を把握して、日常生活を無理なく過ごせるよう、体力を維持することを心がけることが大切です。

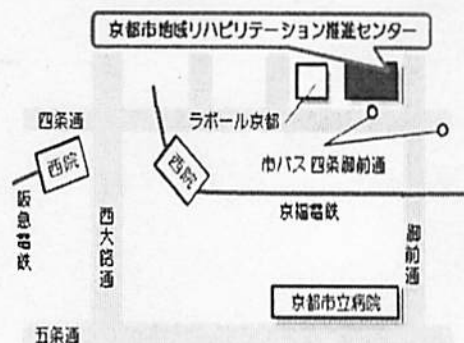


ご自分の現在の体力を知るチャンスです！！是非この機会にお申し込みください。

- 1 日 時 第1回 平成27年 9月11日(金) 午後1時30分～午後3時30分
第2回 平成27年 9月18日(金) //
- ※各回とも同じ内容です。

- 2 場 所 京都市地域リハビリテーション推進センター
3階体育館

市バス 四条御前通 下車すぐ
阪急電鉄 西院駅から 徒歩約6分
京福電鉄 西院駅から 徒歩約3分



- 3 対 象 体の動きに障害のある京都市民
(肢体の身体障害者手帳をお持ちの方)

- 4 測定項目 血圧、骨密度、肺活量、握力、棒反応、長座体前屈、バランス機能、
歩行速度など ※動きやすい服装でお越しください

- 5 定 員 各回20名

- 6 参加費 無料

- 7 申込期間 9月1日(火)から各開催日の3日前まで
(第1回 9/8, 第2回 9/15)まで

- 8 申込方法 京都市地域リハビリテーション推進センター相談課 (Tel 823-1666) へ電話でお申し込みください。(※午前8時30分～午後5時(土・日を除く))
なお、先着順のため、定員になり次第締め切らせていただきます。





第一部 講演

「交通事故や脳の病気の後遺症といわれる
高次脳機能障害ってどんなの？」

講師 村井俊哉氏

第二部 講演

「高次脳機能障害 家族目線から」

講師 柴本礼氏

第三部 座談会

「地域で安心して暮らすということ」

村井俊哉氏 柴本礼氏 大嶋孝司

(京都市地域リハビリテーション推進センター
地域リハビリテーション推進係長)

展示・体験コーナー

「電動車椅子に乗ってみよう」

「自助具を使ってみよう」

「クッションの大切さを知ろう」

「高次脳機能障害のある方を支援している事業所の活動報告」

第29回 京都市地域リハビリテーション交流セミナー
～高次脳機能障害のある方が地域で暮らすために～

平成27年

12月4日(金)

13:30 開場
14:00～16:35 講演
17:00 閉場

場所：京都産業大学
むすびわざ館
2階ホール

定員：300名 参加費：無料 申込み：不要

*手話通訳、要約筆記の必要な方は、11月20日(金)までに
下記の問合せ先までお知らせください。

問合せ先：京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課
TEL 075-823-1666・FAX 075-842-1541

主催：京都市(地域リハビリテーション推進センター)

後援：一般社団法人京都府医師会、一般社団法人京都府理学療法士会、一般社団法人京都府作業療法士会、京都府言語聴覚士会、
公益社団法人京都府介護支援専門員会、一般社団法人京都社会福祉士会、公益社団法人京都市身体障害者団体連合会、
公益財団法人京都新聞社会福祉事業団、NHK 京都放送局、KBS 京都、J:COM 京都みやびじょん、京都市教育委員会

《地域リハビリテーション交流セミナーとは?》

地域リハビリテーション交流セミナーとは、障害のあるなしに関わらず、市民の方が相互に支え合い安心して暮らせる環境づくりを目的に、毎回テーマを変えて実施しているセミナーです。

京都市は、平成27年7月から、「高次脳機能障害のある市民のための専門相談窓口」として、地域リハビリテーション推進センター内に「京都市高次脳機能障害者支援センター」を新たに設け、高次脳機能障害のある市民の支援に取り組んでいます。

そこで、今回の交流セミナーにおいては、メインテーマを『高次脳機能障害』とし、幅広い高次脳機能障害の診断・治療・研究を行っておられる医師から、高次脳機能障害についてお話しいただき、また、高次脳機能障害のある夫と暮らしておられる御家族からは、発症から社会復帰までの経過や見守ってこられた御家族としての思いを語っていただくとともに、これらの方々による座談会を行います。これらを通じて、広く高次脳機能障害についての理解を深めていただくことにより、高次脳機能障害のある方が暮らしやすい地域づくりを目指します。

なお、当日は、このほか、電動車椅子、自助具、クッションの体験コーナーと高次脳機能障害のある方を支援している事業所の活動展示コーナーも設けています。

多数の方の御来場をお待ちしております。

《講師紹介》

村井 俊哉 氏

京都大学大学院医学研究科 精神医学 教授
昭和41年大阪府生まれ。平成3年京都大学医学部卒、京大病院、大阪赤十字病院、北野病院（大阪市）で精神科医として勤務。平成10年京都大学大学院医学研究科修了、医学博士。マックスプランク認知神経科学研究所、京都大学医学部附属病院助手などを経て、平成21年から、京都大学大学院医学研究科・精神医学教室・教授。専門は臨床精神医学全般、神経心理学、神経画像学、高次脳機能障害の臨床。

著書に『メンタルヘルスを学ぶ』（ミネルヴァ書房）など、訳書に『現代精神医学原論』（みすず書房）などがある。



柴本 礼 氏

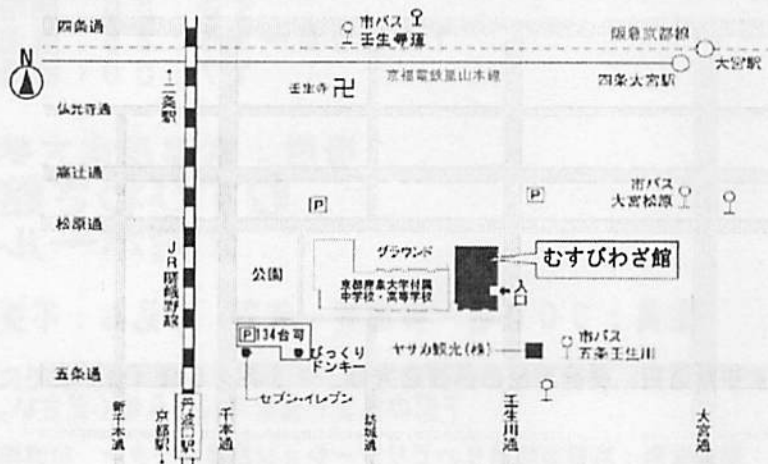
慶應義塾大学文学部卒業、イラストレーターとして活躍中。

平成16年に夫がくも膜下出血で倒れ、以降、高次脳機能障害となる。現在、「高次脳機能障害者と家族の会」と「日本脳外傷友の会」に所属。自身も平成25年に「高次脳機能障害 コウジ村」という家族会を立ち上げる。講演会活動やブログなどを通して高次脳機能障害についての普及・啓発を行っている。

著書に、『日々コウジ中』『続・日々コウジ中』（主婦の友社）があり、夫が退院しリハビリを経て就労につくまでの6年間、全力で支える家族の日々が赤裸々に、そしてユーモラスに描かれている。



《会場案内》 京都産業大学 むすびわざ館 2階ホール （京都市下京区中堂寺命婦町1-10）



・市バス

大宮松原	徒歩約 5分
五条壬生川	徒歩約 3分
壬生寺道	徒歩約 10分

・JR 丹波口駅	徒歩約 7分
・阪急電鉄 大宮駅	徒歩約 11分
・京福電鉄 四条大宮駅	徒歩約 10分

駐車場・駐輪場はありませんので、公共交通機関等を御利用いただくか、近くの有料駐車場（P参照）を御利用ください。

高次脳機能障害者支援の取組の現状と課題について

近年、交通事故や病気による脳の損傷に起因する認知障害である高次脳機能障害の市民に対する支援が課題となっている。

この障害は、医療の目覚ましい進歩に伴う救命率の向上により、近年になって顕在化してきたとされる障害であることから、障害特性に応じた支援はもとより、障害に対する理解さえも未だ遅れている現状にある。

このため、「京都市におけるリハビリテーション行政の基本方針」（平成 25 年 10 月策定）において、公民の役割分担を踏まえて再編する新センターにおける重点取組のひとつとして、高次脳機能障害者支援を位置づけることとなった。

これを受け、地域リハビリテーション推進センターにおいては、高次脳機能障害専門相談窓口を新たに設置するとともに、肢体不自由のある方としていたこれまでのセンター障害者支援施設（自立訓練施設）の対象を高次脳機能障害のある方に転換・特化し、市内の障害当事者とその家族及び福祉サービス事業所等の支援者に対する相談支援や情報、福祉サービスの提供並びに普及・啓発に取り組んでいくこととなった。

1 高次脳機能障害者支援センター

高次脳機能障害専門相談窓口として、平成 27 年 7 月に、地域リハビリテーション推進センターに「高次脳機能障害者支援センター」を新たに設置した。

＊（資料 1）リーフレット参照

(1) 位置づけ

このセンターは、国の「高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業」を実施する支援拠点機関として位置づけられている。

<高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業>

この事業は、平成 18 年度に障害者自立支援法（現在の障害者総合支援法）による「地域生活支援事業」の「専門的な相談支援事業」として整備された事業で、平成 22 年度までに 47 都道府県すべてにこの事業を実施する「支援拠点機関」が設置されている。

「支援拠点機関」においては、支援コーディネーターを配置して、①相談支援、②普及・啓発、③研修、④高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会等への参加、を行うこととされている。

(2) 実施体制

地域リハビリテーション推進センター相談課に「高次脳機能障害支援係」を置き、専門職員（医師1，保健師2，看護師2，作業療法士1，心理判定員1）を配置

*医師は非常勤嘱託

職員は、利用者と福祉サービス事業所等とのつなぎや調整、サービスの選択や提供のための事業所等の相談員への助言、カンファレンス等への参加などを行う「支援コーディネーター」としての役割を担う。

(3) 取組内容

高次脳機能障害のある市民が、その人らしく地域で安心して暮らせるよう個々の当事者の日常生活や社会生活の困りごとに対して、関係機関や事業所等と緊密に連携しながら、専門性を発揮して解決に取り組むとともに、これらの個別課題解決の条件整備として、地域において当事者が必要とする訓練等の福祉サービスを利用しやすい環境づくり及び支援の連携体制の構築に向け、福祉サービス事業所等の支援者に対して、専門研修の開催等を通じて、障害特性等の知識と理解の普及を図ることを基本方針に、次のとおり取り組んでいる。

① 個別支援

高次脳機能障害の確定診断を受けているか否かに関わらず、脳損傷による疾患が疑われる場合には、当事者本人や家族、福祉サービス事業所職員等支援者からの問い合わせに対して、随時、電話や来所により相談を受ける。

相談内容に応じて、高次脳機能障害の確定診断を行うとともに、本人等が障害の認識を得るための学習や作業を通じて障害の状態等に関する評価を行い、今後の支援につなぐ。

相談や評価の際に施設利用が適当と認められた方に対しては、地域リハビリテーション推進センター内に設置している障害者支援施設を積極的に活用する。

また、支援は、支援内容に応じて、福祉サービス事業所や職業、医療等関係機関への同行訪問、ケースカンファレンスへの参加等を行うとともに、関係機関等と緊密に連携して行う。

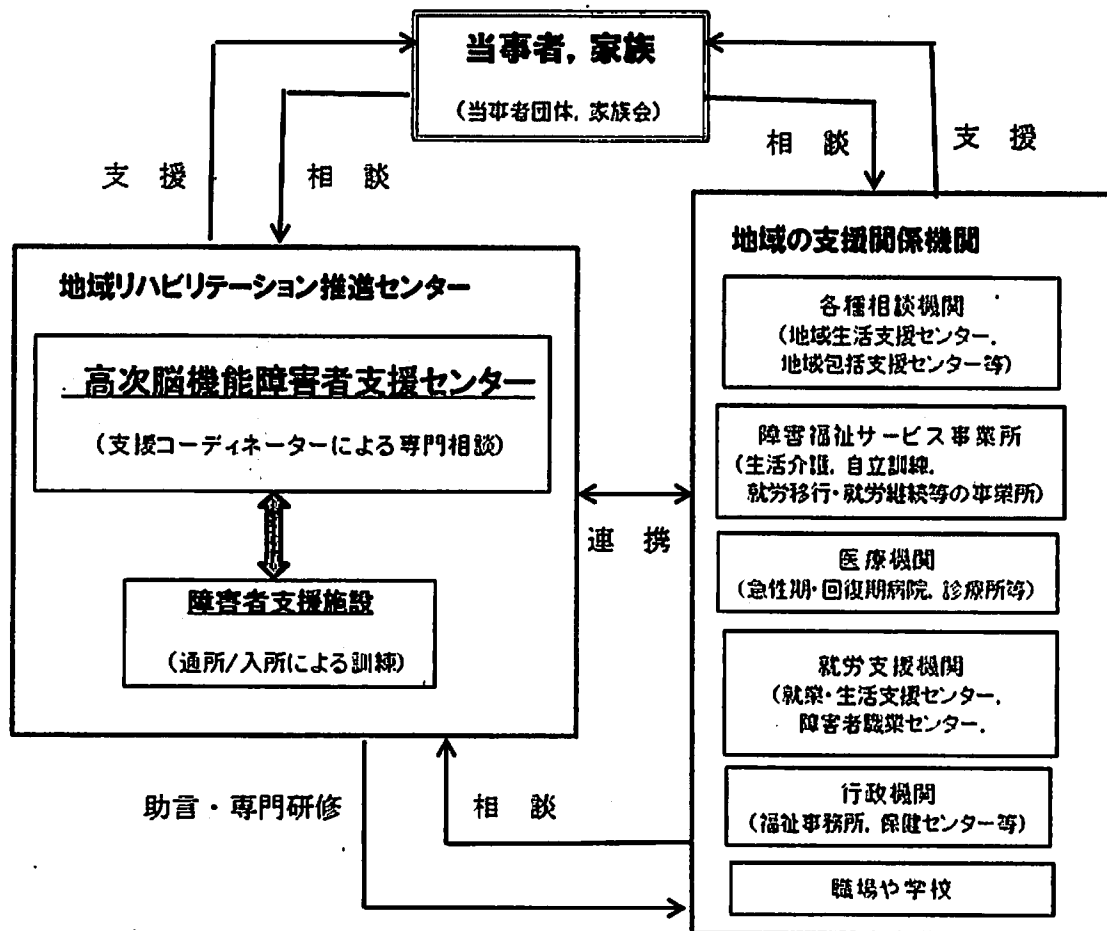
② 支援者支援

高次脳機能障害に関する知識と理解を得ることにより、当事者の方が利用できる障害福祉サービス事業所等の社会資源や地域の医療機関の拡大を図るとともに、相互の協力体制の強化を目指し、各事業所や医療機関等の職員に対して専門研修を実施する。

③ 普及啓発

広く市民に対して、高次脳機能障害の理解を深めるとともに、潜在的な高次脳機能障害のある方の支援に結びつくよう、ホームページ、リーフレットなどで啓発活動を行う。

<支援体制>



(4) 取組状況（平成 27 年 7 月～10 月）

① 個別支援

ア 相談状況

センターを開設した 7 月以降、10 月末までの 4 箇月間の実相談件数は、147 件となっている。

内容は、当センター併設の障害者支援施設の利用に関することが最も多く、次いで、症状に照らして高次脳機能障害なのかどうかの問い合わせに関する事となっており、それぞれ約 5 分の 1 を占めている。これらの次に、家族による当事者の対処方法に関する事、リハビリの相談などと続いている。

相談者別では、家族からの相談が最も多く半分近くを占め、次いで「支援者等」からが約 4 割近くとなっている。「支援者等」からは、医療機関、事業所からが同数となっている。相談方法は、ほとんどが電話によるものである。

<相談状況>

(平成 27 年 7 月～10 月)

内 容		実相談 件数	構 成 比 %
総 数		147	100.0
内 容 別	障害該当非該当確認	29	19.7
	家族による対処方法	21	14.3
	診察	8	5.4
	入退院	1	0.7
	リハビリ希望	15	10.2
	当センター訓練施設利用	32	21.8
	日中活動	4	2.7
	在宅福祉サービス	5	3.4
	就労	13	8.8
	復学	1	0.7
	各種制度	5	3.4
	その他	13	8.8
相 談 者 別	本人	21	14.3
	家族	68	46.3
	支援者等	58	39.5
	【内訳】		
	・医療機関	23	15.6
	・支援者	23	15.6
	・行政機関	8	5.4
方 法	電話	131	89.1
	来所	16	10.9

*「内容別状況」は、おもな相談内容1つのみをカウント

これらの相談状況を月別にみると、開設当初の7月においては、市民しんぶんや新聞報道による周知効果により多くの相談があったが、その後は、相談内容の若干の変動を伴いながらも安定し、実相談件数は、概ね月当たり 25 件前後で推移している。

* (資料 2)「高次脳機能障害者支援センター相談支援の状況」参照

イ 支援状況

これら相談に対して行った支援の具体的な内容は、次の表のとおりとなっている。

支 援 内 容	延件数	構成比 %
総 数	346	100.0
相談助言	299	86.4
対処の方法	166	48.0
制度施策案内	92	26.6
当センター施設利用案内	41	11.8
確定診断	7	2.0
作業評価	27	7.8
同行支援	8	2.3
福祉サービス事業所	5	1.4
職業紹介機関	2	0.6
医療機関	1	0.3
カンファレンス参加	1	0.3
その他	4	1.2

* 支援した内容をすべてカウント

ウ 継続支援

相談に対し、継続した支援の必要のある当事者の方は、10月末現在15名となっており、センター開設以降、徐々に増加してきている。これらの方に対しては、就労など支援目標に応じた関係機関と緊密に連携しながら、継続的な支援に取り組んでいる。

(平成27年10月末現在数)

対象者数	支援目標				
15	地域生活移行	就労	日中活動支援	確定診断	復学(小児)
	1	5	5	2	2

② 支援者支援

ア 研修会の開催

【入門講座】 各回とも定員40名 於地域リハビリテーション推進センター研修室
講師は、各回とも高次脳機能障害者支援センター専門職員

月 日	内 容	参加者 総数	内 訳		
			本人・ 家族	支援者 職員	その他
8月21日(金)	発症からのステップ	51	17	25	9
9月18日(金)	注意障害・記憶障害・遂行機能障害	69	23	36	10
10月16日(金)	社会的行動障害	69	26	33	10

この講座は、文字どおり基礎的な内容を中心に実施したが、参加者数は、毎回、定員を超えており、研修ニーズは、なお相当程度に潜在するものと考えられる。このため、1月以降に同一内容により再度実施することとしている。

＊（資料3）チラシ参照

また、この研修においては、福祉サービス事業所等の支援者職員からは、事例を通じた具体的な支援方法に関する研修を求める声が数多く寄せられ、今後、支援者職員を対象に、具体的な事例検討による研修を実施することとしている。

イ 地域連絡協議会等の出席

10月22日（木）「中部（圏域）障害者自立支援協議会 専門部会（困難ケース研究会）」に支援コーディネーターが出席し、事例検討において助言を行った。

高次脳機能障害の特性を踏まえることにより、新たな視点からの支援課題解決の糸口が見出されるなど成果をみることができ、事例検討を通じて、高次脳機能障害のある人の固有の支援の視点や方法等を会得することの重要性が改めて感じられた。

出席者数 36名

③ 普及・啓発

ア リーフレットの作成・発行

＊（資料1）参照

イ ホームページ

まもなく開設の予定

ウ 地域リハビリテーション交流セミナー

第29回のテーマを高次脳機能障害のある方の支援とし、次により開催する。

＊**報告**（別紙5）チラシ参照

【第29回 地域リハビリテーション交流セミナー】

○テーマ 高次脳機能障害者支援

「高次脳機能障害のある人が地域で暮らすために」

○日 時 平成27年12月4日 午後1時30分～5時

○場 所 京都産業大学 むすびわざ館 2階ホール

○内 容

・講 演：京都大学精神科医教授による概要説明と当事者の妻（イラストレーター）の体験

・座談会：上記演者と当センター職員の3名による座談会

(5) 課題

引き続き、本人や家族及び支援者等からの個々の相談に対し、関係機関と緊密に連携しながら、専門性を発揮して的確に支援するとともに、高次脳機能障害の知識の普及と理解の促進に向けた研修等を地道かつ着実に取り組んでいく。

このほか、差し当たり整理の必要な課題として、京都府リハビリテーション支援センターとの連携のあり方があるが、これについては、おもに次に示す項目について、早急に京都府及び同支援センターと協議・調整のうえ、何よりも当事者や家族及び支援者などにとって、利用しやすいセンターとなるよう努める。

- ア 相談支援の対象者
- イ 研修会の開催
- ウ 関係機関等連携体制
- エ 情報発信
- オ 普及啓発の取組

2 障害者支援施設

高次脳機能障害のある市民に対する支援の取組が遅れている中、公的部門として民間事業者の先導的な役割を果たすため、旧身体障害者リハビリテーションセンターの機能再編により、これまで肢体不自由のある市民としていた障害者支援施設（自立訓練施設）の対象について、平成27年4月から高次脳機能障害のある市民に転換・特化し、自立訓練サービスを提供している。また、施設への通所による訓練が困難な方には、入所支援も提供しており、今年10月からは短期入所支援を開始した。

(1) 施設概要

① 提供サービスと利用者定員

- ア 自立訓練 40名
（＊生活訓練 10名 機能訓練（肢体不自由の障害を伴う方）30名）
- イ 入所支援 30名
- ウ 短期入所 空床利用 ＊（資料4）「障害者支援施設のご利用案内」（パンフ）

② 実施体制

施設長のほかサービス管理責任者2名、生活支援員14名、理学療法士、作業療法士各2名、言語聴覚士1名、管理栄養士1名、心理判定員1名

※管理栄養士及び心理判定員は相談課兼職

(2) 運営実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	累計
利用開始人数	1	2	5	2	4	2	0	16
入所支援	-	-	2	1	1	1	0	5
利用終了人数	-	-	-	-	-	0	1	1
入所支援	-	-	-	-	-	-	-	0
月末現在継続利用者数	10	11	15	19	21	23	22	
入所支援	3	3	5	6	7	8	8	
短期入所							-	

※1 「10月末現在継続利用者数」の内訳：生活訓練 6名 機能訓練 16名

※2 10月の「利用終了人数」は、長期入院が見込まれることとなったことによるもの。

(3) 課題

当施設においては、まだまだ取組の遅れている高次脳機能障害者支援の分野において福祉サービスを提供する施設の立場から、民間事業者の先導的役割を果たすことをその責務として公設公営により運営している。

もとより高次脳機能障害者支援について、当センターにおいては、旧附属病院や障害者支援施設における対応経験はあっても、確立した訓練・支援プログラムをあらかじめ持ち合わせているわけではなく、現在、利用者の方の個々の状況に応じた適切なプログラムの開発と適用の蓄積を進め、高次脳機能障害のある方の支援のノウハウや訓練プログラムの確立に向け取り組んでいる途上にある。

高次脳機能障害のある人に特化した本格的な高次脳機能障害者支援施設として受け入れてきた利用者数は、現在、ようやく20名を超える状況にあり、確立した訓練・支援プログラムの民間事業者への還元等、先導的役割を果たすためには、なお一層の取組の蓄積が必要である。

また、今後、まもなく生じる訓練終了者に対する支援についても、当施設における新たな課題として、関係機関等と緊密に連携しながら取り組んでいく必要がある。

3 今後の予定

高次脳障害者支援センター及び障害者支援施設共に、個々の利用者については、相談に対する支援や訓練サービスの提供及び訓練終了後のフォロー等、個々の状況に応じた適切な支援に地道かつ着実に取り組むとともに、支援センターについては、事例を通じた研修会等を計画的に実施する等して、高次脳機能障害のある人を支える支援者の支援にもしっかりと取り組んでいく。

また、京都府及び同支援センターとの協議・調整を早急に行い、利用者を混乱させない、利用しやすいセンター体制に整理するとともに、併せて、市内における円滑な支援者の連携体制の確立に努める。

高次脳機能障害者支援センター相談支援の状況(平成27年度)

【1 相談状況】

実相談件数	実数					構成比 %				
	7月	8月	9月	10月	累計	7月	8月	9月	10月	累計
	75	22	26	24	147	100	100	100	100	100
障害該当かどうか	16	3	8	2	29	21.3	13.6	30.8	8.3	19.7
家族の対処方法	13	3	2	3	21	17.3	13.6	7.7	12.5	14.3
診療	4	1		3	8	5.3	4.5	0.0	12.5	5.4
入退院	0	0		1	1	0.0	0.0	0.0	4.2	0.7
リハビリ希望	8	1	3	3	15	10.7	4.5	11.5	12.5	10.2
当センター施設利用	14	6	7	5	32	18.7	27.3	26.9	20.8	21.8
日中活動	1	2		1	4	1.3	9.1	0.0	4.2	2.7
在宅福祉サービス	4	1			5	5.3	4.5	0.0	0.0	3.4
就労	3	3	4	3	13	4.0	13.6	15.4	12.5	8.8
復学	0	1			1	0.0	4.5	0.0	0.0	0.7
運転免許取得	0	0			0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
各種制度(手帳、年金等)	3	1		1	5	4.0	4.5	0.0	4.2	3.4
その他	9	0	2	2	13	12.0	0.0	7.7	8.3	8.8
本人	13		5	3	21	17.4	0.0	19.3	12.5	14.3
家族	39	13	10	6	68	52.1	59.2	38.5	25.0	46.3
支援者等	23	9	11	15	58	30.7	40.9	42.3	62.5	39.5
医療機関	6	5	4	8	23	8.0	22.7	15.4	33.3	15.6
支援者	10	2	7	4	23	13.3	9.1	26.9	16.7	15.6
行政機関	3	2		3	8	4.0	9.1	0.0	12.5	5.4
その他	4				4	5.3	0.0	0.0	0.0	2.7
電話	69	21	20	21	131	92.0	95.5	76.9	87.5	89.1
来所	6	1	6	3	16	8.0	4.5	23.1	12.5	10.9

【内容別相談「その他」の内容】

- ・通院介助ボランティア紹介
- ・生活訓練指導の町紹介
- ・4歳児の検査相談(発達障害、高次脳機能障害)
- ・介護施設利用者から状態改善により退所する場合の対応
- ・支援センターの事業内容

等々

【支援者等内訳「その他」の内容】

- ・職場の同僚、知人及び不明

【2 支援状況】

延支援件数	実数					構成比 %				
	7月	8月	9月	10月	累計	7月	8月	9月	10月	累計
	96	73	94	83	346	100	100	100	100	100
相談助言	90	59	81	69	299	93.8	80.8	86.2	83.1	86.4
対処方法助言	19	43	56	48	166	19.8	58.9	59.6	57.8	48.0
制度施策案内	49	9	18	16	92	51.0	12.3	19.1	19.3	26.6
当施設について	22	7	7	5	41	22.9	9.6	7.4	6.0	11.8
確定診断		2	2	3	7	0.0	2.7	2.1	3.6	2.0
作業評価	2	9	9	7	27	2.1	12.3	9.6	8.4	7.8
同行支援		2	2	4	8	0.0	2.7	2.1	4.8	2.3
福祉サービス事業所		1	1	3	5	0.0	1.4	1.1	3.6	1.4
職業紹介機関		1	1		2	0.0	1.4	1.1	0.0	0.6
医療機関				1	1	0.0	0.0	0.0	1.2	0.3
カンファレンス参加		1			1	0.0	1.4	0.0	0.0	0.3
その他	4				4	4.2	0.0	0.0	0.0	1.2

【支援件数「その他」の内容】

- ・施設見学、リーフレット、他の疾患に係る問合対応

【3 継続支援の状況】

対象者数 (月末現在数)	実数			
	7月	8月	9月	10月
	2	11	12	15
地域生活移行(病院⇄地域)		1	1	1
就労(一般、福祉)	1	4	6	5
日中活動支援(サービス利用等)	1	4	2	5
確定診断		1	1	2
復学(小児)		1	2	2

構成比 %			
7月	8月	9月	10月
100	100	100	100
0.0	9.1	8.3	6.7
50.0	36.4	50	33.3
50.0	36.4	16.7	33.3
0.0	9.1	8.3	13.3
0.0	9.1	16.7	13.3

高次脳機能障害 入門講座

この入門講座は、高次脳機能障害についての基礎知識を学ぶ講座です。一回のみの参加も可能です。

開催日	内 容
平成27年8月21日(金) 午前10時～11時	テーマ「発症からのステップ～社会参加に向けて～」 高次脳機能障害とは？発症から社会参加に向けた各ステージで意識したいこと等をお話しします。
平成27年9月18日(金) 午前10時～11時	テーマ「注意障害・記憶障害・遂行機能障害について」 高次脳機能障害で生じる可能性のある注意障害、記憶障害及び遂行機能障害の概要と、それらに対する工夫例についてお話しします。
平成27年10月16日(金) 午前10時～11時	テーマ「社会的行動障害について」 高次脳機能障害で生じる可能性のある社会的行動障害の概要と、それらに対する工夫例についてお話しします。

講 師：京都市高次脳機能障害者支援センター
支援コーディネーター 櫻井 直子

受講対象者：市内にお住まいの高次脳機能障害のある方及びそのご家族
市内にお住まいの高次脳機能障害のある方を支援されている方

定 員：各回40名(事前申込制)

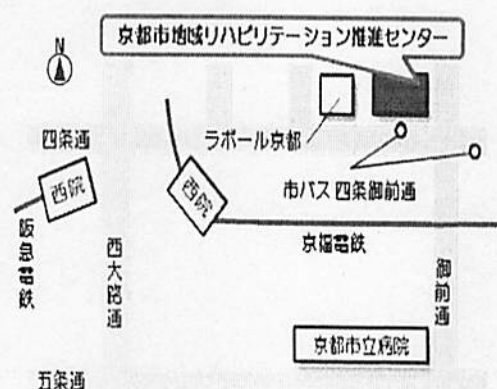
参 加 費：無料

会 場：京都市地域リハビリテーション推進センター
1階 研修室(京都市中京区壬生仙念町30番地)

申込方法：別添の「入門講座」申込書に必要事項を記載し、
FAXにてお申込みください。
(お電話によるお申込みも受け付けます。)

FAX (075) 842-1541

申込締切り：各開催日の2日前(ただし、定員に達し次第、締め切ります。)



【申込先・問合せ先】

京都市高次脳機能障害者支援センター(京都市中京区壬生仙念町30番地)

※京都市高次脳機能障害者支援センターは、京都市地域リハビリテーション推進センター1階にあります。

TEL (075) 823-1658

[受付時間] 月曜日～金曜日(祝日・年末年始除く) 8:30～12:00及び13:00～16:00

